

沖縄

病薬会誌

Journal of Okinawa Hospital Pharmacist Association

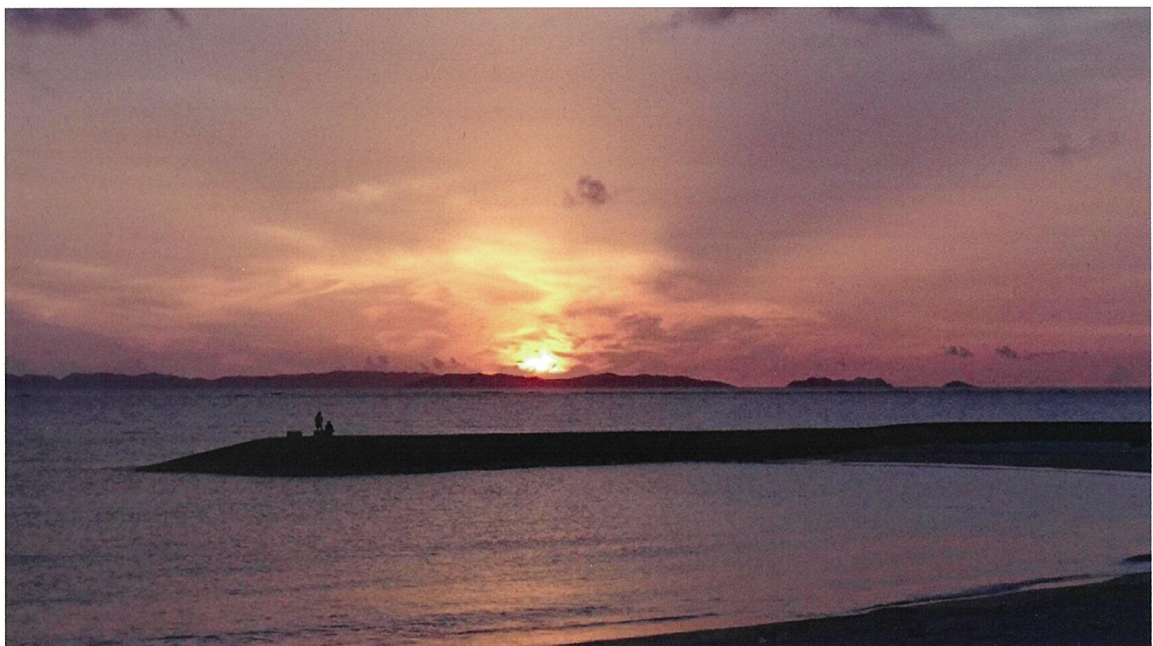
No. 18 2017. 2



沖縄県病院薬剤師会



「2016年夏 渡嘉敷島にて」 小杉卓大



「終わり始まり」 儀保 翔

表紙写真

「海のコンペイトウ」 撮影者 橋田 律



「波」 潮平英郎



「またね」 橋田 律



「熊本_復興祈願」 上原あかね



「medusas」 外間惟夫

Theravance
レルベア エリプタは米国 Theravance社と
共同開発した製品です。



RELVAR[®] ELLIPTA[®]



喘息治療配合剤

処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること) 薬価基準収載

レルベア[®] 100 エリプタ[®] 14・30 吸入用
200 エリプタ[®] 14・30 吸入用
RELVAR[®] ELLIPTA[®]
ビランテロールトリフェニル酢酸塩・フルチカゾンフランカルボン酸エステル
ドライパウダーインヘラー

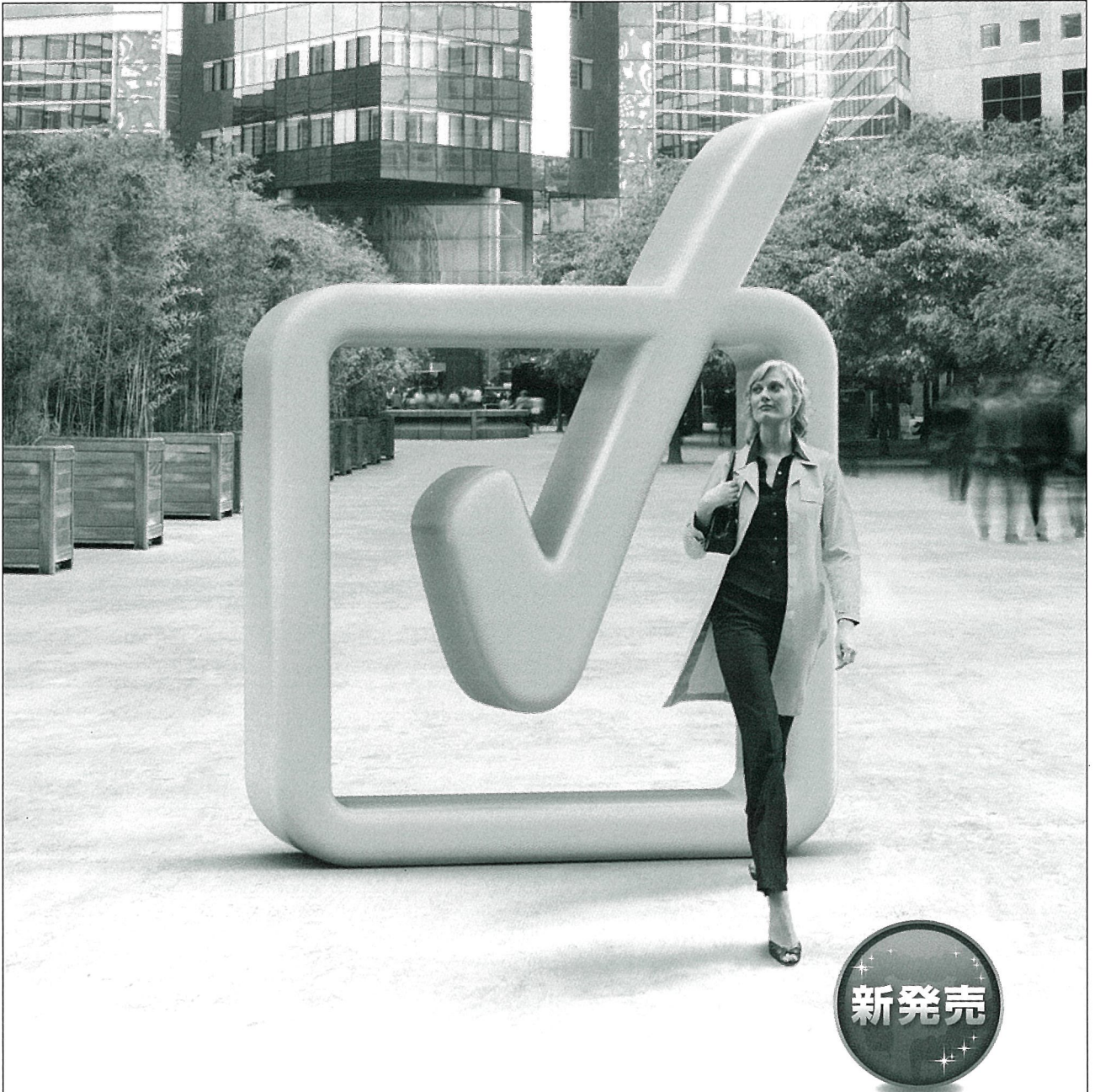
「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等は、添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入)・資料請求先

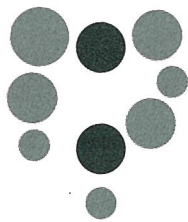
グラクソ・スミスクライン株式会社
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15

グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先
TEL : 0120-561-007 (9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)
FAX : 0120-561-047 (24時間受付)

改訂年月2015年4月(MKT)



新発売



潰瘍性大腸炎治療剤 処方箋医薬品[※]

薬価基準収載

リアルダ[®]錠 1200mg

LIALDA[®] Tab. 1200mg メサラジン・フィルムコーティング錠

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等の詳細は、添付文書をご参照ください。



製造販売元〈資料請求先〉
持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地
☎ 0120-189-522 (くすり相談窓口)



提携
Shire



提携
nographarma

2016年12月作成



巻頭言

沖縄県病院薬剤師会会長
琉球大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長 中村克徳

沖縄県病院薬剤師会会員の皆様、いつもお世話になっております。平成 28 年 6 月 4 日付で沖縄県病院薬剤師会会長を拝命いたしました中村克徳です。

沖縄県病院薬剤師会では、会員の地位向上と会員相互の親睦を図るとともに、学術・技術の研鑽練磨を進め、医療機関の中における専門機能を十分に発揮し、以て国民の保健衛生に寄与することを目的にしております。具体的には、以下の 7 項目を目的として掲げております。

1. 病院・診療所薬剤師の学術技能向上
2. 医薬品の適正使用の推進
3. 薬剤管理指導業務の推進
4. 学会、講習会、研修会の開催
5. 専門・認定薬剤師や生涯研修の取得推進
6. 長期実務実習の充実と推進
7. 県薬剤師会、他関係団体との連携

県病薬の活動としましては、1. の病院・診療所薬剤師の学術技能向上および 4. 学会、講習会、研修会の開催については、県薬の先生方が参加できる機会をますます増やしていく予定です。去る 9 月 3、4 日に琉球大学 50 周年記念会館で開催された PEOPLE (Pharmacy Education for Oncology and Palliative care Leading to happy End-of-life) プログラムは、日本緩和医療薬学会教育研修委員会との合同企画で、緩和薬物療法認定薬剤師を取得した、あるいは取得しようと考えている方を対象とした態度教育を中心として開催されましたが、県薬の先生も多数参加いただいて大変好評でした。今後は、薬局薬剤師の皆様にも琉球大学大学院医学研究科の博士課程、修士課程、研究生、科目等履修生といった多彩な学びの機会を是非ご利用いただきたいと思っております。さらに、琉大病院の院外処方箋に記載されている検査値・化学療法レジメンの見方、漢方薬やサプリメント、英語など外国語を話す患者さんへの窓口対応などの勉強会を企画し、徐々に開催してまいりましたが、好評なものは県薬・県病薬の先生方にも参加していただけるように拡大していきたいと思っております。2. 医薬品の適正使用の推進および 3. 薬剤管理指導業務の推進につきましては、平成 28 年度の診療報酬改定で示された、かかりつけ薬剤師・薬局による薬学的管理、残薬や重複投薬、不適切な多剤投薬・長期投薬を減らすための取組等の方向性を踏まえ、入退院時の薬剤管理やポリファーマシー対策等で県薬・県病薬の連携を進めていきたいと考えております。5. の専門・認定薬剤師や生涯研修の取得推進につきましては、前述の

PEOPLE プログラムの他、がん専門薬剤師研修の受け入れを引き続き琉大病院で実施しております。ご存知のように沖縄県には薬学部が存在せず、わが国で最も薬剤師が不足している県であります。何らかの理由で一時的に離職している薬剤師の先生が不安なく職場復帰できるようなサポート体制の充実も、県薬と連携して進めていきたいと考えております。6.の長期実務実習の充実と推進につきまして、県病薬では県薬と連携して、薬学部実務実習生を積極的に受け入れるのと同時に実務実習指導薬剤師の養成も着実に実施していきたいと考えております。

県病薬では、患者さんにより良い薬物療法を提供できるようにサポート体制を充実してまいります。薬剤師としての学びや活動の機会を県薬の皆様にも情報提供させていただき、7. 県薬剤師会、他関係団体との連携を一層強化していきたいと思っております。また、県薬・県病薬の連携に加え、薬剤師と医師・歯科医師・看護師・介護支援専門員・病院関係者の方々との多職種連携にも取り組んでいきたいと考えております。どうか県薬の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。


 特集 1

若手病院薬剤師座談会

友愛会豊見城中央病院 薬剤科
上原あかね 儀保 翔

昨年に引き続き、座談会第2弾の今年は薬剤師歴1～4年目の若手の皆さんに、各施設の状況や業務内容、普段感じていることを話し合っていました。

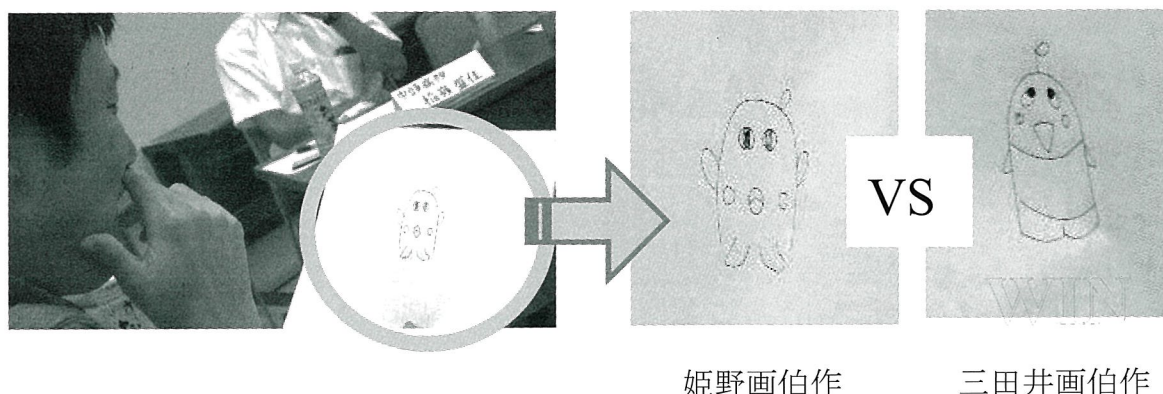
<参加者(以下、敬称略)>

氏名 (経験年数)	所属施設
司会 入月 健 (15年目)	沖縄協同病院
企画 小杉 卓大 (12年目)	豊見城中央病院
古波蔵 直子 (4年目)	琉球大学医学部附属病院
中村 雄太 (1年目)	〃
稲嶺 盛佳 (2年目)	中頭病院
伊波 優子 (4年目)	那覇市立病院
姫野 太一 (1年目)	〃
松島 亜紀 (2年目)	浦添総合病院
上原 佳子 (2年目)	〃
大屋 葵 (2年目)	南部医療センターこども病院
外間 政志 (2年目)	沖縄赤十字病院
佐邊 真理 (2年目)	〃
天久 栄介 (2年目)	北部病院
平識 善彦 (2年目)	豊見城中央病院
三田井 菜菜子 (2年目)	〃

★司会の挨拶

【入月】皆さん、こんばんは。県内2年目の薬剤師の方たちは普段から勉強会や懇親会等でも交流があり、とても仲が良いと聞いています。今回設けられたこの同期同士が集まる座談会の場で、さらに仲を深め県内の薬剤師のネットワークを広げていけたらいいと思います。それでは早速今日初めて顔を合わせた方もいると思いますので、はじめにゲームをしてこの場を温めていきたいと思います！

今から1分以内に全員でふなっしーを描いてください。私の独断と偏見で決めた上手いチームが勝ちです。負けたチームから自己紹介スタートしたいと思います。



～自己紹介～

★各施設を選んだ理由があれば教えてください

【天久】僕は離島出身なので将来的には地元で働きたいと思い、そのチャンスがある県立病院を選びました。現在は県立北部病院に勤務しています。

【佐邊】私は全国規模の大きな病院で働きたかったことと、大学在学中に東日本大震災で被災し災害救護に興味を持ったため沖縄赤十字病院を選びました。

【三田井】私は幾つか県内の病院を見学した中で、教育プランが充実していて自分のなりたい薬剤師像に近づけそうだったので豊見城中央病院にしました。

★それでは各施設の状況について教えてください

【大屋】県立病院は人数が少ないので調剤業務が主な業務になります。

【三田井】豊見城は薬剤師の人数が多いので調剤、化学療法、病棟業務をシフト制でローテーションして行っています。日によっては出勤人数に対して薬局が狭いので窮屈に感じます。

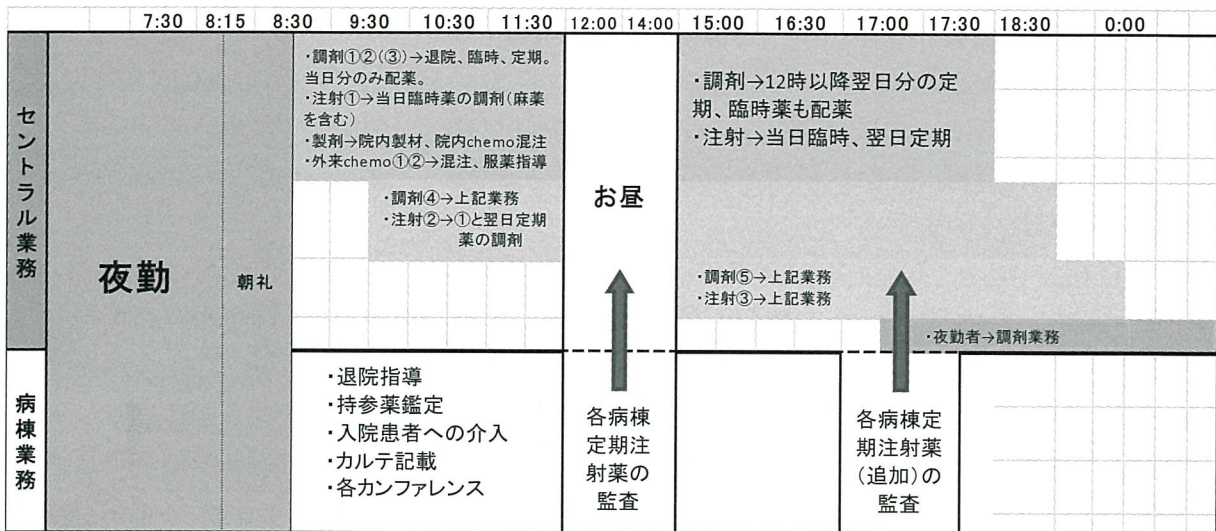
【中村】琉大病院では10月現在1年目はセントラル業務中心で病棟にはまだ上がっていません。

(図1) 参加者各施設の状況(2016年10月時点)

	病床	薬剤師	病棟業務	病棟薬剤業務実施加算
琉球大学医学部附属病院	600	36	○	×
中頭病院	336	33	○	○
那覇市立病院	470	29	○	○
浦添総合病院	311	24	○	×
県立南部医療センター	434	16	×	×
沖縄赤十字病院	314	17	○	○
県立北部病院	327	10	○	×
豊見城中央病院	376	39	○	○

【稲嶺】中頭病院はシフトが少し複雑で、1日の動きも難しいのですが、ドクターにとっても薬剤師にとっても働きやすい環境となっています。今は新設された病院に移転して更にシフトも病棟業務も変わり忙しくなっています。

(図2) 中頭病院薬剤科の1日の業務の流れ



★職場の雰囲気はどうか？多職種との関わりはどのように行っていますか？

【天久】県立北部は人数が少ないので、スタッフ同士の仲は良くわきあいあいとした楽しい雰囲気です。

【上原】浦総は医師や薬剤師主催の勉強会を開催して、みんなで意識を高めあっています。

【伊波】那覇市立は20～30代の若手薬剤師が多く、病棟業務内容において疑問に思ったことなどが相談しやすい環境です。他職種とは病棟カンファレンスで意見交換を行ってコミュニケーションを取り合っています。

【大屋】南部医療センターは県立病院間の異動があり薬剤師の入れ替わりが激しいです。そのため、様々な環境を経験してきた先輩方の話が聞けるのは勉強になりますが、その反面業務内容の統一化は難しいところがありますね。

【古波蔵】琉大はスタッフが多いので病棟毎での交流が多いです。

【外間】赤十字は他の施設に比べて薬剤師や病棟の看護師さんは女性スタッフが多いので...

【入月】あ、もしかしてモテちゃう？

— 笑 —



★自分の施設で自慢できることがあれば教えてください

【平識】うちは腎臓に関して3つの外来があります。自分が担当しているのはCKD外来で、腎不全患者さん向けに主に指導しています。血液透析(HD)、腹膜透析(PD)の患者さんはそらまめ外来、腎移植患者へ指導を行う腎移植外来があり、それぞれ担当の薬剤師によって指導が行われています。

【松島】自慢できるところがたくさんあるので発表させてください！！抗MRSA薬であるバンコマイシンやテイコプラニンのTDMはそれぞれの病棟担当者が行っています。また、調剤ミスを集計・分析して、薬剤部全体で共有できるようにしています。それから、これはお金のかからない自慢なのですが、錠剤・注射の棚にそれぞれの薬の名称の裏を利用してカンニングペーパーを作っています。内容は簡易懸濁ができるか、規格違い、腎機能に応じた投与量などが記載されており、調剤中に見ることができます。勉強がてら1年生が毎年更新することになっています。

【中村】当院ではシステムの話になりますが、外来でも院外処方箋に検査値を載せているため確認することができます。

【姫野】当院では1年目から病棟業務を行っており、私は小児病棟を任されています。

【天久】北部病院は離島の診療所からの一包化依頼を受け入れています。それから、人手が足りない中で加算の取れない白内障術後の点眼指導に力を入れています。これは県立のサービス精神です！

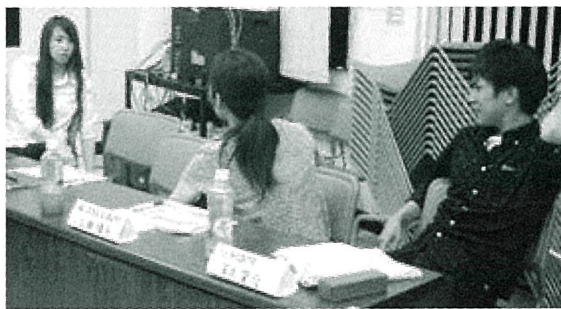
【大屋】うちも点眼指導には力を入れて行っています(笑)



★同じ病棟内での情報共有や申し送りの方法について

【稲嶺】ほとんどの施設が同じ方法であるとは思いますが、当院は担当病棟が週毎に変わるので、カルテやメモ、口頭で翌週の担当へ患者さんの薬剤変更や確認事項について申し送りしています。

～ 休憩タイム ～



★思い描いていた薬剤師像と一致している部分、異なる部分はなんですか。

【上原】病棟に上がれるようになって患者さんと接することができたのはよかったのですが、毎日の業務に追われて自分を振り返る余裕がありません。

【佐邊】私も日々目の前にある業務に精一杯で、余裕はまだないかな。

【入月】確かに僕達も2年目の時は自分を振り返る余裕などなかったけれど、今振り返ると皆さんかなり成長していると思いますよ。

★これからの目標はありますか？

【平識】腎臓部門だけではなくICT、NSTなど他の職種とも関わりの持てるチームに入って活動してみたい！

【大屋】薬剤師の人数を増やして業務の幅を広げていきたい！

【天久】県立は慢性的な人員不足なので…。

★参加してみて思ったことはありますか？

【稲嶺】業務の時間を作るヒントが得られた。

【三田井】同じ科の病棟の人がいたらこのあと語り合いたい！

【外間】自分の病院でやっていなくて他の病院でやっていることを持ち帰ってやってみたい。他の病院の話聞くことで自分の病院のことが振り返れるからいいですね。

【天久】他の施設が取り組んでいる内容を聞いて、やはり自分の施設に持ち帰って取り入れていきたい気持ちは大きくなりました。でも現実問題、それを実行にうつすとなると、動き始めるのは2年目の自分たちですからね(笑)。

【古波蔵】そもそも私は2年目ではないけれど、今日この会に参加してみなさんのお話を聞いて、自分が2年目の時どういう風に薬剤師として働きたいなど考えていなかったの、意識が高いなと思いました。

【小杉】現在は日々の業務に追われて大変だと思うのですが、今後5年目、10年目と経験を積んでいく中で、自分達が今後病院薬剤師としてどのようなことをしていきたいと考えている人はいますか？病院薬剤師、薬局薬剤師として働くビジョンがありますか？6年制になった今、病院実習において病棟に上がることが当たり前のような教育を受けてきた2年目の方たちはどんな風に考えていますか？野望はあるか。薬剤師としてのビジョンがあるか。若い内から考えていって自分たちの代で新たなシステムを生み出してより良い職場環境にしていっていいのではないかなと思います。そして、それを外にどんどんアピールして発信していかないと、何年経っても病棟薬剤業務といっても結局服薬指導のみになってしまいます。処方された薬をマニュアル通りに説明して渡すだけになってしまわないように、病棟業務の内容と質を変えていけたら良いと思います。

【入月】自分の施設でやりたいことがあれば他の施設をみることでヒントが転がっているかもしれません。沖縄県は横のネットワークが非常に充実しているので、他施設からの刺激を受けて参考になることは広めていきやすい環境にあると思います。もっとこんなことをやりたいとか、こう変えていったらどうかとか若い人達から問題を提示していき、若手の皆さんにぜひ変えていってほしいですね。本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございました。



最後に

今回の座談会は若手薬剤師による意見交換であったため、与えられている業務に対する不安や葛藤、施設間の状況や業務内容の違いに驚く様子が印象的でした。若手同士だからこそ共感できる部分、自分に不足している部分を再認識する上でも良い機会となりました。本日は非常に有意義な意見交換ありがとうございました。

今回の座談会開催に向けて、ご参加協力頂きました各施設の薬局長の先生方、会場を提供して頂きました那覇市立病院薬剤部の先生方、この場を借りてお礼を申し上げます、ありがとうございました。

座談会終了後の打ち上げでは、本音や今後の野望を語り合い、熱い夜となりました。

今後も若手が気軽に意見を交換できる場を広げ、沖縄県病院薬剤師会を盛り上げていきましょう！



集中治療室・救急救命領域情報交換会

友愛会豊見城中央病院薬剤科
小杉 卓大

平成 20 年度の診療報酬改定において、救命救急入院料を算定している患者への薬剤管理指導料が認められました。その後も特定集中治療室(ICU)における専任の薬剤師配置に関して評価が高まっており、平成 28 年度診療報酬改定では新たな「病棟薬剤業務実施加算 2」が算定されています。

今回、初めての試みとして沖縄県病院薬剤師会では集中治療室・救急救命領域で業務を行っているまたは、今後業務開始を検討されている薬剤師の先生方にお集まりいただき、情報交換会を開催しましたのでご報告をさせていただきます。

<開催日>

平成 28 年 9 月 6 日 19:30～
豊見城中央病院薬剤科内

<参加者>

県内病院 11 施設、18 名の薬剤師

<内容>

- ・豊見城中央病院薬剤科 喜久山有沙氏による昭和大学病院救急救命センターでの 3 週間の研修内容の報告
- ・各施設における業務状況の情報交換会

<豊見城中央病院 ICU における薬剤師病棟業務報告>

豊見城中央病院(以下:当院)は平成 24 年度より ICU に担当薬剤師を配置し、病棟業務を行ってきました。ICU における薬剤師の勤務体制としては 2 名(12 年目と 5 年目)の薬剤師によるローテーションにて月曜日から土曜日まで業務を行っています。

主な業務としては①毎朝の回診、カンファレンスへの参加、②薬剤選択や投与量の提案、③配合変化やルート管理、④医師、看護師への情報提供と相談応需、⑤投与薬剤の効果や副作用のモニタリング、⑥主治医、救急担当医との連携、⑦薬剤管理指導業務、⑧医薬品管理等です。

ICU 入室患者は経口投与が困難な場合や、早急に確実な薬効を必要とされる場合が多いため、注射薬が選択されます。鎮静・鎮痛薬、カテコールアミン製剤、抗菌薬等、様々な薬剤が同時に投与されるため配合変化、投与速度、希釈濃度といったルート管理が非常に重

